



医師・技術者に手ごろ

「義 足」

岡山大教授 児玉俊夫 監修

戦後、わが国の義足の研究は、いっとうに進歩しないのが実情である。その根本ははなはだしく価格が低く抑えられるからである。そしてこの仕事に情熱を傾ける人が少ないことの1つの原因である。

今回、この義足の書物をひもと

て感じることは、むづかしい理論をきわめて平易に述べてあることである。少し平易になりすぎるとも言えるかも知れないが、義肢に関する知識の低い医師・技術者には、このような書物は手頃ではないかと思う。

最後には英独の用語の一覧表もつけ

てありはなはだ親切である。これは恐らく、児玉教授のアイディアと思う。しかし、医師は、実際に患者に義肢を装着してみると、理論で説明できないことが沢山ある。これを克服して行くのは患者と義肢設計・制作者、この者の情熱以外に道はない。その3者を結びつけるのには、この書物はちょうど手頃であろう。

(A 5, 頁 265, 図 212, 写真 95, ¥2200, 医学書院刊)

(九大教授 天児民和)